パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤の構築　　2022 年度
2021 年度採択研究代表者　　年次報告書

池田 真利子

筑波大学 芸術系
助教

夜の文化芸術の社会経済的機能に関する研究

研究成果の概要

初年度はプレ・コロナ社会で文化経済セクターとして認識されず、また実態理解の不足していた公益性の高い民間文化セクターの中で、COVID-19 で深刻な影響を受けた夜間音楽経済に注目し、ヒアリング調査を 32 件（42 名）実施した。調査項目はコロナによる文化芸術領域への影響、音楽のパフォーマンスとその変化、音楽の生産に関わる空間とその変化、オンラインの普及と人的ネットワーク形成の変化等である。当初予定の量的調査は、実施準備を行ったが回収率が低く実施を断念した。代わりに、レコードショップやアーティストへの追加ヒアリング調査を国内 4 件、海外 4 件の計 8 件実施した（2023 年 2～3 月）。

まず、パンデミック以前に別プロジェクト研究で実施の諸外国の調査を参照し、日本では文化政策レベルにおいて実態把握の迅速さと、この実態把握および予測値に基づく迅速な政策的対応に大きな差があることを看取した。その結果、文化経済セクターや創造性に多大な影響を及ぼした COVID-19 の教訓を社会に還元するため、文化・創造経済の枠組みにおける文化芸術の更新と、それを可能とする制度設計・情報整理の 2 点が必要であるとの考えに至った[研究成果 1)4)5)]。なお、伝統・革新の融合を可能とする文化・創造経済の制度設計を行うドイツの文化政策は参照に値すると考え、この点を 2022 年 7 月に開催される文化経済学会＜日本＞にて発表した。また、同発表において日本の COVID-19 の夜間音楽空間（クラブ・ライブハウス）への影響を看取するうえで、収用客数が重要な分水嶺となっていたことを踏まえ、キャパごとの類型化に基づき、事業体組織・音楽・立地・経営・雇用・行政支援に関する概要を報告した。同結果を踏まえ、2022 年 9 月には小規模キャパの「小箱」カルチャーに注目し、この事業体の特性や場所の機能、COVID-19 の経済的影響に関して報告したほか[研究成果 3)]、クラブ・ライブハウス双方が、デジタル化の対応状況に関する知見を報告した[研究成果 2)]。

【代表的な原著論文情報】

1) “日本の文化創造産業の統計整備に向けた学術報告ー民間公益文化セクターである大都市圏のライブハウス・クラブへの COVID-19 の影響分析に関する定性的調査に基づいて―”，文化経済学会＜日本＞2022 年度研究大会論文フルペーパー，文化経済学会, 13 頁, 2022

2) “COVID-19 と音楽パフォーマンスの場所のデジタル化―ライブハウス・クラブへの定性調査に基づく現状と課題の整理―”, 2022 年日本地理学会秋季学術大会，日本地理学会発表要旨集，日本地理学会, 2022, https://doi.org/10.14866/ajg.2022a.0_96

3) “COVID-19 と東京の小箱カルチャーに関する萌芽的知見―ライブハウス・クラブへの定性調査に基づく現状の整理―”, 2022 年日本地理学会秋季学術大会，日本地理学会発表要旨集，日本地理学会, 2022, https://doi.org/10.14866/ajg.2022a.0_132

4) “日本の文化創造産業の統計整備に向けた学術報告―民間公益文化セクターである大都市圏のライブハウス・クラブへの COVID-19 の影響分析に関する定性的調査に基づいて―”，文化経済学会＜日本＞2022 年度 3 研究大会-B 文化統計要旨，文化経済学会＜日本＞，2022

5) “COVID-19 下の創造性と芸術表現，ポスト・コロナ学パンデミックと社会の変化・連続性、そし

て未来”（秋山肇編），明石書店, pp. 196-220, 2022
6) “The Role of Urban Gardening in Global Cities: Three Case Studies in Berlin, Rome and Tokyo”, *Sustainable Health Through Food, Nutrition, and Lifestyle*（A.GROVER, A. SINGH and R.B. SINGH Eds.）, Springer, pp.245-257, 2023